

モニタリング 2022（令和 4）年次報告の概要

II 資産の保護・管理

○II-1 現状変更件数及び内容

- ・史跡の現状変更許可申請書の提出件数 22 件

史跡内における現状変更は、文化財保護法の手続きに基づいて適正に実施されており、構成資産の顕著な普遍的価値や属性に影響を与える変更は行われていない。

- ・通知書・届出書の提出件数 1 件

陵墓における営繕工事や発掘調査は、宮内庁の陵墓管理委員会による審議や文化財保護法の手続きに基づいて適正に実施されており、構成資産の顕著な普遍的価値や属性に影響を与える変更は行われていない。

○II-2 き損件数及び内容

- ・資産のき損件数 1 件

降雨により、墓山古墳の墳丘裾部で枯損木 1 本が倒壊した。しかし、資産に与える負の影響はほとんど認められなかった。

○II-3 遺構の状況

- ・墳丘の土砂流出による遺構変化 2 件
- ・墳丘裾の洗掘による遺構変化 0 件
- ・樹木の立ち枯れによる遺構変化 0 件
- ・その他の要因による遺構変化 0 件

一部で土砂流出が認められる資産については植生シートによる養生を実施するなど対応中。その他の資産は特に変化は認められない。遺構への影響について今後も経過を観察していく。

- ・定点観測写真撮影による変化の把握

遺構への影響が懸念される資産はあるものの、いずれの構成資産においても、資産の価値を損ねるような変化は認められない。

○II-4 調査研究にかかる報告書の発刊数

- ・構成資産にかかる調査の報告や研究成果を記載した報告書、論文等の発刊数 26 件

資産及び資産周辺埋蔵文化財包蔵地の発掘調査成果報告書、百舌鳥・古市古墳群に関する展示図録、シンポジウム・講座資料、研究論文等が多数刊行された。

III 開発の圧力

○III-1 資産周辺の開発の申請

- ・緩衝地帯範囲で各種法令に基づく申請許可件数・内容

（建築基準法による確認、景観地区における認定、屋外広告物法による許可）

申請件数は微増、微減にとどまり、資産の価値を損なうような開発圧力の増加は認められない。

○III-2 景観を阻害する要因の観察

- ・主たる景観阻害要因である既存不適格建築物の是正状況を把握
(高さに関する既存不適格物件の件数)
件数に変化はなく、景観に変化は生じていない。

○III-3 景観の定点観測

- ・観測ポイントからの眺望の変化(景観の定点観測)
墳丘越しの景観に変化は生じていない。古墳の間に新たに建築された建築物はなく、景観に変化は生じていない。

IV環境の圧力

○IV-1 気候変動

- ・(百舌鳥) 降水量、降水日数とも、過去10年間で最少であり、50mm以上の降水日もない。
資産への影響は認められなかった。
- ・(古市) 降水量、降水日数とも昨年度より減少しており、70mm以上の降水日もない。降雨による倒木1件以外、資産への影響は認められなかった。

○IV-3 鳥獣の営巣活動等の状況

- ・鳥獣の出没状況や営巣活動等による資産に対する影響の有無0件
影響なし。特に遺構に負の変化は認められない。

V自然災害と危機管理

○V-1 風水害・地震・火災時の遺構の状況

- ・資産のき損件数と内容1件
降雨により、墓山古墳の墳丘裾部で枯損木1本が倒壊した。しかし、資産に与える負の影響はほとんど認められなかった。

VI来訪者への対応

○VI-1 講演会・見学会等の開催数

- ・講演会、シンポジウム、調査見学会等の開催数の把握21件
徐々に新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなり、対面での講演会・見学会開催数が増加傾向を示した。

○VI-2 ホームページの閲覧数

登録後、3年が経過し、ホームページについては、全体的にみると日本語版ページの閲覧数が減少した一方で、英語版ページは大幅に数を伸ばした。また、各種媒体への写真掲載手続き対応を行い、昨年と比較すると、雑誌・書籍への露出数および新聞記事掲載数はそれほど変わらなかった。インターネット検索ボリューム数に関しては、「古墳 世界遺産」というキーワードでの検索数が半減した。

○VI-3 解説資料等の発行部数

もずふるカードの改訂作業を行ったため、全体としての発行部数は大幅増となったが、恒常的に使用するガイドブックやパンフレットについては、感染対策による配布機会の制限が継続されたため、新規発行を行わなかった。

○VI-4 ガイド養成のための研修回数

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種や規制緩和等が進んだことを受け、各市でのガイド実施件数およびガイド養成講座などは復調傾向にあった。

○VI-5 ガイダンス施設の整備状況

ガイダンス施設において、新たな整備は行われなかった。

○VI-6 案内板等設置計画の策定と実施

構成資産の案内板はほぼ設置が完了していたところ、藤井寺市においてさらに拡充が図られた。

○VI-7 便益施設の配置状況

すでに主要動線上にトイレを設置しているところ、本年については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者が集中することもなく、問題は生じていない。駐車場は十分な台数を確保しており、年間通じて不足はない。

○VI-8 来訪者数

参考数値とした応神天皇陵古墳を除くと、資産そのものへの来訪者は減少した。一方で、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種や規制緩和等が進んだことを受け、いずれの公開活用施設においても来訪者数が増加した。

※詳細は別冊の報告書を参照